



2015年11月25日(水)
関西ペイント(株)大阪本社にて開催した
ヨザン弥江子のデザインペイント基礎講座
—— 「スタンピング」② ——
についてレポートいたします。

- ・講師：(株)フォーアーツデザイン
代表取締役 アートディレクター ヨザン弥江子

今回もヨザン弥江子さんを講師にお迎えして、楽しく、実践的にデザインペイントを学んでいただける、スタンピングのワークショップです。(詳しい手法などは、ヨザン弥江子さんのコラム「#004」でもご紹介しています)今回は、前回の進化版として、あらかじめグレーとベージュの下地が塗られているA3パネル2枚に、漆喰塗料「アレスシックイ」(ホワイト)を塗って、実際の壁をイメージしながら作品作りに挑戦していただくという流れです。皆さんお仕事の現場でアレスシックイを活用していただいているかと思いますが、「塗るのは初めて」といわれる方も多く、最初は金ゴテとハケの使い方からレクチャーを受けました。



「アレスシックイは漆喰ですから職人さんのようにきれいに真っ直ぐ塗るのは難しいですけど、デザインペイントはどちらかというとなえてガタガタ感を楽しむところに重きを置いているので、あまり気にしなくても大丈夫です。今回は下地が透けているぐらいのザックリした感じでやってみてください。金ゴテは軽くバターを塗るような感じで、ハケは痕が残るぐらいにラフに、下地の透け具合も考えながら塗っていきます」とヨザンさん。アレスシックイは塗って乾いた後に重ね塗りができるので自由度が高く、デザインペイントにもってこいの道具だとも仰っていました。

アレスシックイを塗って乾くまでの間に、スタンプの柄と色を決め、どうレイアウトしていくかプランしていきます。「今回は1回目の時のようにどんどん押していくのではなく、2枚のパネルを大事に仕上げたいと思っています」というヨザンさんの呼びかけに、皆さん真剣な顔で構図を練っておられました。だいたいのイメージができあがったら、練習用の紙を使ってウォーミングアップです。



前回同様、いきなり本番用のパネルに押すのではなく、まずはスタンプを押すときの自分の癖や、水でゆるめた塗料ののび具合などを確かめてから本番に向かいます。前回のワークショップではスタンピングの技法についていろいろ教わりましたが、今回はさらに上級のテクニックとして、スタンピング後に新たな道具を使ってアレンジする方法も教えていただきました。



「細い筆で柄の周りのアウトラインをとっていく方法があります。同じ太さで書いてもいいですし、強弱をつけてもいいです。スタンプの色と離れた色だと難しいので、近い色の方が安心です。また仕上げにサンドペーパーをかけると、柔らかい風合いやアンティークな雰囲気が出てきます。この線のどこを弱めたいかとか、どの程度こするかなど、削り過ぎないように決めてからやった方がいいです」

この他、ヨザンさんは同じスタンプをたくさん押した作品も作られていて、一風変わった雰囲気に仕上がっていました。スタンプ同士が重なる部分は塗料の色を少し変えてあるので立体感もあり、白場の方がむしろ柄のように浮き出ていました。スタンプは本当に手軽な塗装を楽しめるキットですが、工夫次第でもっと複雑なアレンジができたり、いろいろな可能性が広がっていきそうだと感じました。



皆さん夢中で作業されるうち、今回もあっという間に2時間が過ぎていきました。まだまだやり足りないという方もおられましたが、最後は恒例の講評会です。一人一人作品のポイントや実際に作ってみた感想などを発表し、ヨザンさんからアドバイスを受けていきます。

そして最後にヨザンさんは、「今回は初めてと仰っていた方も黙々と躊躇なくやられていたのでびっくりしました。ご本人が失敗したと思っけていても、結果的に柄がキレイに出るよりいい場合もあります。デザインペイントは、絵やアートと思うと遠い存在になってしまいますが、自分の感性を色で表現すると思えば、多分全員できると思います。

柄をいろいろ試すより、ひとつの柄をいろいろな表現でクリエイティブしていくと技術が伸びるので、お時間があるときにぜひ引き続きやっていってください。小さいサンプルを10枚作ったら10枚分のコレクションになるので、それを綴じてお客さんのところへ持って行く。そういうスタイルが欧米の方のワークショップの使い方です。前回もお伝えしましたが、そういうワークショップになるとすごく面白くて、現実的な感じになるのではないかと思います」と締めくくられていました。



次回のヨザンさんのワークショップでは、既製品の型を使ってステンシルの作品作りにチャレンジしていただく予定です。壁だけでなく家具や椅子、布などにも応用できるので、ぜひご参加ください。

P X I では、今後もセミナーを通じてインテリアの中でいかにペイントを使っただけか、どうすれば使っただきやすくなるかということを考え、いろいろと情報発信をしていきたいと思っけております。これからも楽しみに！